



オールハンズ・ボランティアズは盛町を起点として活動し、地元の人との絆を深めた



岩手県立大学の企画・運営による「こども復興会議」では、参加した中高生が、未来の大船渡市の姿を語り合った



鹿児島県の大隈半島4市5町復興支援チームは、大船渡市内の業者に「がんばっぺ！大船渡Tシャツ」を発注し、着用して支援活動を行った

様々な方々、団体、企業等の幅広いご支援が、復興の大きな力となりました。

国内外の多大な支援の絆を、本市のまちづくりを生かしていく

震災直後から、自衛隊、警察、消防、海上保安庁等の関係機関に、米国をはじめとした国際救助隊も加わり、被災者の救出・捜索活動が行われました。
また、地元業者が一致団結してがれき撤去やライフラインの確保に取り組みました。
さらに、炊き出しや医療・保健活動、生活物資及び食料品の運搬・供給等のため、友好都市をはじめとした自治体関係者や、民間ボランティア、企業・団体関係者など、全国各地から駆けつけていただいた方々の励ましのおかげで、市民は再び立ち上がる勇気を持つことができました。
本市は、厳しい局面を支えてくださった、こうした方々との絆を大切に、ご恩を忘れることなく、これからのまちづくりを進めていきます。



がれきは、手選別と重機選別による一次選別をした後、現在の永浜・山口地区工業用地の二次選別所に運ばれた

災害廃棄物は、太平洋セメント株式会社大船渡工場を中心に処理されました。市民生活の再生に、多くの地元企業が貢献しました。



太平洋セメント株式会社
大船渡工場

まちの復旧のため、一般社団法人岩手県建設業協会大船渡支部と建設業者が連携し、被災者を雇用して、がれき撤去・分別を行いました。



猪川地区公民館に宿泊しながら復興支援に携わった派遣職員

猪川地区公民館や立根地区公民館は、派遣職員や学生ボランティアに宿泊の場を提供し、まちの復旧をがっちり支えました。

国内外のボランティアの方々がまちの復旧支援に尽くしました。



側溝の泥上げをするボランティア